

平成23年度 第2回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 平成24年2月21日（火） 午前10時00分～11時10分

【場 所】 豊田市役所 南74委員会室

【出席者】 （委 員） 加藤 恵美子 （豊田市体育指導委員協議会 会長） 《副会長》
岩月 富士雄 （(社)豊田市身障協会 理事）
北村 幸子 （豊田市女性スポーツ団体協議会 会長）
手嶋 道雄 （豊田市スポーツ少年団 本部長）
寺田 広貴 （豊田市小中学校長会 保健体育委員会 委員長）
平林 栄子 （スポーツ指導員）
湯浅 景元 （中京大学スポーツ科学部 教授）
（事務局） 笠井 保弘（教育長） 倉橋 剛（教育行政部長）
太田 錬治（スポーツ担当専門監） 坂井 京子（スポーツ課主幹）
村中 正史（スポーツ課副主幹） 熊谷 明典（スポーツ課係長）
畔柳 隆二（スポーツ課係長）

【傍聴人】 1人

【次 第】 1 副会長あいさつ
2 教育委員会あいさつ
3 議題
（1）平成23年度生涯スポーツプラン予定事業の点検・評価及び平成24年度取組計画について（資料1～4）
4 その他

【議事等の摘要】

■議事

事務局：資料に基づき説明（資料1～4）

副会長：事務局から生涯スポーツプランの進捗状況及び取組実績に対する担当課評価について説明があったが、ご意見をいただきたい。

委 員：コーディネーショントレーニング指導者の養成については、単発的な講座ではなかなか指導までできないので、資格取得ができるような継続的な講座も考えては。

事務局：コーディネーショントレーニング指導者養成講座は、日本コーディネーショントレーニング協会の平井氏にお願いしており、講義だけでなく、講座の受講者にはイベントの補助指導者として実技研修もしていただいている。今後もこのような形式での講座を考えている。

委 員：プランの数値目標に体力テストに関する指標があるが、全国平均と比較する目標は、トリックに陥ってしまう可能性がある。極端な例えをすると、全国の子どもの体力が

異常に下がってしまった場合に、豊田市の子どもの体力が全国平均を上回ってれば、それでよいというものではない。豊田市としての体力目標値の設定が必要である。

副会長：子どもの体力やスポーツ活動についてどのように感じているか、ご意見をいただきたい。

委員：今の子どもは、外で遊ばない。業間指導は難しいので、体育の授業の中で運動の楽しさを教えていきたい。

委員：テレビ、ゲーム、パソコンといった画面が今の子どもをダメにしたと言われている。しかしながら、解決策は見出されていない。知育と体育をどのように両立させていくかが課題である。

委員：今の子どもは習い事が多いが、スポーツも習い事として取り入れていかないといけないのかもしれない。

委員：スポーツ教室に参加する親子はよいが、スポーツをしない人たちをどのようにスポーツの場に出てきてもらうようにするかが課題である。余裕のないお母さんたちが体を動かすには、どのようにしたらよいか。例えば、肩こりの解消といったことから体を動かすきっかけづくりを始めるという視点もあるのでは。

副会長：障がい者スポーツについてはどのように考えるか、ご意見をいただきたい。

委員：現在、生活不活発病というものが話題になっている。障がい者は、自分の生活に必要な体力を付けていかなければならない。平成24年度は、関係機関との連携に重点を置き、各種事業を展開するという説明があったが、障がい者だけではできないこともあるので、ぜひ連携を強化してほしい。

副会長：他に何かあれば、ご意見をいただきたい。

委員：スポーツ習慣を継続させることは難しく、世界共通の課題である。生活に密着した動きのスポーツ推進など、豊田市もこの問題について、真剣に取り組んでほしい。

副会長：本日は、大変貴重なご意見をいただいた。子どもの体力向上や成人のスポーツ習慣の継続に向けて、みなさんと連携を取りながら進めていきたい。

以上 平成23年度 第2回豊田市スポーツ推進審議会終了